

令和5年度 美作市立美作中学校 学校評価

I 学校自己評価

(1) 生徒指導

①規範意識の向上

・生徒の気持ちを理解しようと努め、よいところを認めながら、落ち着いた学校生活を送れるよう取り組んだ。

(ア) 頭髪についての指導が数件あった。また遅刻する生徒が増えつつあるので、時間を意識して行動するよう話をしていきたい。アンケート結果では90% (+4%) の生徒がルールの大切さを実感している。

(イ) 配慮が必要な生徒と周りの生徒とのコミュニケーション不足によるトラブルが増加している。個々に応じた粘り強い指導を続けている。

(ウ) 狭い道での並走など地域から苦情が寄せられている現状がある。今後も、関係機関やPTAと協力しながら、教職員全体で指導する必要がある。

(エ) ネット上でのトラブルが数件あった。トラブルの未然防止として、道徳や情報教育講演会、非行防止教室、集会での注意喚起などを継続していく。また、保護者への意識付けをする機会も必要である。

②生徒指導体制の充実

・生徒の健全育成に組織的に取り組んだ。

(ア) 毎週木曜日1限目に生徒指導・いじめ未然防止委員会を開催し、情報交換や指導の方向性を共有することができた。教職員全員が同一歩調で指導できるよう、リアルタイムでの情報共有を心がける。また、自分たちの指導や対応がどうであったかを振り返り、確認することも大切である。

(イ) 学級経営では学年方針のもと、担任を中心に学年団全体で協力して行っている。また、学校行事では、クラスが団結して達成感を感じられるよう工夫し、実施している。「学校は楽しい」と回答した生徒が82% (-2%) であった。学年によって配慮の必要な生徒の落ち着かない様子が見られる。

(ウ) 不登校対策委員会を毎月開催し、情報共有に努めている。別室「たんぼぼルーム」での指導を中心に、具体的な対応策を模索し実行している。「小さなサインを見逃さない」「初期対応に気をつける」「情報共有を密に行う」取り組みを学校全体で進めている。

(エ) iチェックを活用し、生徒理解に努め、教育相談を充実させている。

【今後の課題】

- ・生徒が主体的に考え行動できる機会を増やし、自主的に行動できる集団になるよう継続した指導を行う。
- ・生徒から「こんなことをやってみたい」といった声上がり、教員がバックアップして取り組めるような活動が広がるとよい。また、生徒が主体的に活動する場面では、自由にさせるだけでなく、粘り強く話を重ねていき、よりよい方向へ作り上げていけるような活動になるとよい。
- ・登下校時の交通安全指導については、関係機関と連携しながら継続して行っていく。
- ・ネットトラブルについて、非行防止教室などを繰り返し行い、危険性を周知し、未然防止のため家庭との連携を図る。保護者対象のネットモラル研修も実施する必要がある。
- ・学級での集団作りの活動や、達成感を感じられる活動を充実させる。

(2) 学力向上

①授業の改善

・『主体的に「学ぶ」生徒を育む授業づくり』に向けて改善を行っている。

(ア) ①落ち着いた学習環境、②授業改善、③家庭学習の充実、を重点に取り組んでいる。

(イ) 集中力を欠く生徒、忘れ物が多い生徒に対して、家庭と協力しながら指導を継続している。

(ウ) 授業の質の改善については、校内研修・小中合同研修会・美作市授業改革研究会などを通して取り組んでいる。また「自主学習プリント」を活用することで、家庭学習の定着を図っている。

(エ) 授業において、「めあて」を掲示し、最後に「まとめ」「振り返り」に取り組むことで、学ん

だことが自覚できるよう工夫している。ICT機器活用やグループワークを取り入れるなど授業展開を工夫している。「授業がわかりやすい」と答えている生徒は79% (+4%)であり、引き続き改善の必要がある。「振り返りでは『疑問に残ったこと』『もっと学びたいこと』を確認している」と答えている生徒は79% (+4%)であり、自ら課題を見つけ解決しようとする成果が少しずつ現れてきている。しかしながら、「毎日家庭学習に取り組んでいる」生徒は56% (-10%)と減少傾向にあり、本校の最重点課題の一つとして、保護者と協力し、推進していく必要がある。

(オ) 朝読書に取り組み、落ち着いた1日のスタートがきれるようになっている。

(カ) 基礎学力の定着を図るために、毎日10分間の補充学習に取り組んでいる。

(キ) 「進路や生き方について学ぶ機会があり、学習した内容は大切だと思う」生徒は87% (-3%)である。引き続き、希望進路実現への指導、情報提供を行う。

(ク) 年間授業時数は、夏季休業中の登校日、週30時間設定などにより、時間確保に努めている。

②学力調査の結果

・全国学力学習状況調査、県学力学習状況調査の結果を考察し、授業改善に取り組んでいる。

【今後の取組】

- ・『主的に「学ぶ」生徒を育む授業づくり』を念頭に置き、歩みを止めることなく授業改善に取り組む。また、小中で連携して家庭学習の習慣化の取組を強化していく。
- ・学習支援ボランティアについて、地域ボランティアの開拓が進んでいない。今年度は夏休みの「補充教室」において、林野高校生によるボランティアの協力を得ることができた。
- ・「わからないことに対する手立て」については、各学年とも放課後の質問教室、放課後教室や朝学習などの取組を行った。放課後教室では、今年度は勉強が苦手な生徒を対象に行った。
- ・予習課題、授業、復習課題が連動するよう、授業づくりを行う。

(3) 特色と魅力のある教育活動

・学校行事、生徒会活動、部活動、地域と連携した教育活動をいろいろと工夫している。生徒の自主性・主体性を培うとともに、達成感・成就感を体験させることを目標に取り組んだ。

(ア) 「学校行事や委員会活動などは学校生活をより楽しく豊かにするために役立っている」は生徒80% (+6%)、保護者87% (±0%)となっている。清掃活動や有志実行委員による会の企画・運営など、学校を盛り上げようとする動きが定着している。今年度は延べ500人以上の生徒が有志の活動に参加した。今後、行事だけでなく日常生活の中でも、自主的に活動できるような工夫が必要である。

(イ) 「部活動(社会体育)に積極的に取り組んでいる」生徒は90% (+8%)であった。

【今後の取組】

- ・生徒会を中心に、有志による活動を今後も継続させ、委員会などに所属していなくても、達成感や成就感を体験できる活動を定着させる。
- ・部活動については、美作市の地域連携、地域移行の動向を注視しつつ、検討をしていく必要がある。

(4) 学校運営組織の機動化

①学校運営組織

・校務分掌の機動化を図るため、分掌の意義と役割、担当者の責任を明確にして活動することを目標とした。

(ア) 生徒指導・いじめ未然防止委員会などの常設委員会や体育祭実行委員会などの特別委員会は機能したが、年度中に2名の退職があり、個人への負担が極端に偏りバランスに欠けた。

②危機管理

・生徒の安全・安心を確保するための取組を行う。

(ア) 「事故や災害などから生命を守るために、どのように行動すればよいか知っている」は生徒87% (+5%)、保護者85% (+7%)という回答である。もしものときに自分で考えて行動できるように安全教育をさらに進める必要がある。

【今後の取組】

- ・分掌内だけの反省で終わらず、横の連携もできるように調整する必要がある。
- ・毎年の反省をもとに、分掌表の見直し（分掌の統合など）をする必要がある。
- ・安全、安心を確保するため、不審者対策の訓練は必要である。
- ・生徒に対する心肺蘇生法などの救急救命法は、保健体育の授業として継続して取り組む。

(5) 開かれた学校づくり

- ・地域に親しまれ、信頼される学校づくりを目指して努力した。
- (ア) 授業参観・フリー参観・学級懇談会・学年懇談会・土曜日授業・学年レクなどを設定した。引き続き、地域や保護者の方に来校していただける機会を設けたい。
- (イ) 「学校便りや通信等を通じて学校の様子がよくわかる。」という項目は78%であった。引き続き、細やかな情報発信に努めていく。
- (ウ) イキイキ応援団の皆様にお世話になり「お鍋の会」を実施することができた。また、日頃から学校周辺の草刈りなど環境整備にもご尽力いただいている。様々な場面で応援していただいていることが教職員全体の精神的な支え、安心感に大いにつながっている。学校を支援してくださる方々への感謝の気持ちを日頃の生活や行事などを通して伝えていきたい。「地域に親しまれ、信頼される学校」を目指し、今後も連携を深めていく。
- (エ) 民生委員、警察協助手員、サポートセンター、警察署、PTAの方々によるあいさつ運動、街頭補導、校内巡回を設定した。多くの方に関わっていただきながら、安心・安全な学校づくりができた。

【今後の取組】

- ・学校便りや月別行事予定表の配付、みまちゃんネルへの行事の掲載など、情報発信を今後も継続していく。
- ・地域学校協働本部事業の地域活動ボランティア（家庭科）の支援による実習は、活動時の安全確保とともに、コミュニケーション力の向上に大きく貢献しており、継続支援をお願いする。
- ・林野高校との連携を進め、高校側がもつりソースを学校づくりに生かしていく。

II 学校関係者評価

(1) 評価内容

- ・登下校時のヘルメット着用の状況はよく交通マナーもよい。校内の様子も以前の大変な時期からは比べものにならないくらい落ち着いている様子が伺える。
- ・小学校からの成長の跡も見える。一方で、表面から見えにくいトラブルや内にこもる生徒、配慮のいる生徒が増加傾向にあり、個別に対応する事案が増えているとのこと。先生方の大変さが伝わってくる。生徒は様々な失敗をするだろうが長い目で見守ってほしい。
- ・生徒の問題行動については、これまでの人間関係や家庭環境、特性など様々な要因が関係していると思われる。引き続き、保護者への早期の連絡や関係機関との連携、粘り強く話を聞きながら、子どもたちの指導に当たってほしい。
- ・学力には課題があるということだが、毎日の補充学習や高校生の活用、授業の工夫など様々な取り組みが行われている。引き続き学力向上に努めてもらいたい。

(2) 評価委員（美作中学校イキイキ応援団）

里見 力（会長）	綱澤修二（学校評議員）
寺元恵子（主任児童委員）	平田克哉（美作市青少年育成センター職員）
長瀬諭司（元本校職員）	尾高弘之（元PTA会長）
小山 修（元PTA会長）	檜尾泰幸（前PTA会長）
奥山賀崇（現PTA会長）	

※今年度は、R7年度からの学校運営協議会への移行を見据えて、協議会委員候補者による評価を行った。